

水利協は水利用設備の衛生問題を解消し、安全で安心できる環境づくりを目指しています

■ 新年の御挨拶

会長 大熊久之



明けましておめでとうございませう。

関係各位におかれましては、謹んで新年のご挨拶とさせていただきます。

東日本大地震の被災者ならびに関係者の皆さまにおかれましては、震災以来、何かと不自由な日々を送られていることと存じます。一日も早く生活が回復され、明るい年となりますよう祈念いたします。

ます。

さて、長きにわたる経済不況、政治不信、大震災と試練の日々が続いていきますが、2012年(平成24年)は、東北地方を中心とする東日本の復興・国づくり、大阪を中心とする西日本の行政改革・国づくりと、日本列島再生の元年となり、国民の団結力、郷土愛が日本という船の行方を決める大きな転換の年になると思われまます。

また、環境の分野においても世界規模の自然環境の変化にともなう災害の連続発により、私たちの生活環境へ悪影響を及ぼしています。これらに対

応する策の構築が喫緊の課題として求められており、とりわけ、生命を脅かす感染症に対する備えについて真剣に取り組まなければならない年になると思われます。



当協会は、東日本震災の避難所で過ごす人々の健康や自衛隊・消防隊など被災者を救出する方達の安全など、災害時における多くの課題を教訓として、衛生上の危機管理・緊急対応などあらゆる「想定」を行うことで、早急に日常生活の中に組み入れ、安心できる社会環境を構築してまいります。

また震災後、供給過剰により飽和状態となっている水ビジネス市場(ペットボトル飲料水など)も

製造過程における衛生管理の不備による事故が表面化するなど、感染症の拡大が懸念される中、事業者の知識・技術の向上が求められます。

当協会は、自治体との連携により、総合的な衛生教育を地域の事業者および施設従事者などに対して実施し、「安全」な管理体制のもと、「安心」できる製品や施設を利用者・使用者等に提供できるように、適切な基準を完備し、安心・安全な社会環境を取り戻し、事業の安定的発展を目指す一年としていく所存です。

